

## 第2章 現況と課題

---

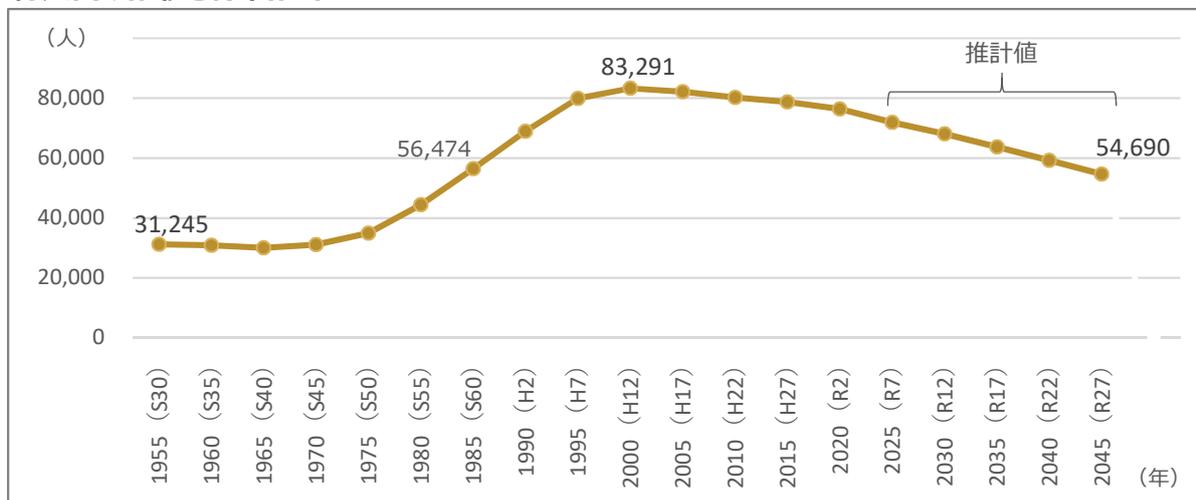
# 1. 人口動向

## (1) 人口と高齢化率

大規模な住宅団地の開発に伴い、1970（昭和45）年以降から急激に増え続けていた総人口は、2000（平成12）年の83,291人をピークに減少をたどり、2040（令和22）年には60,000人を下回ると推計されています。

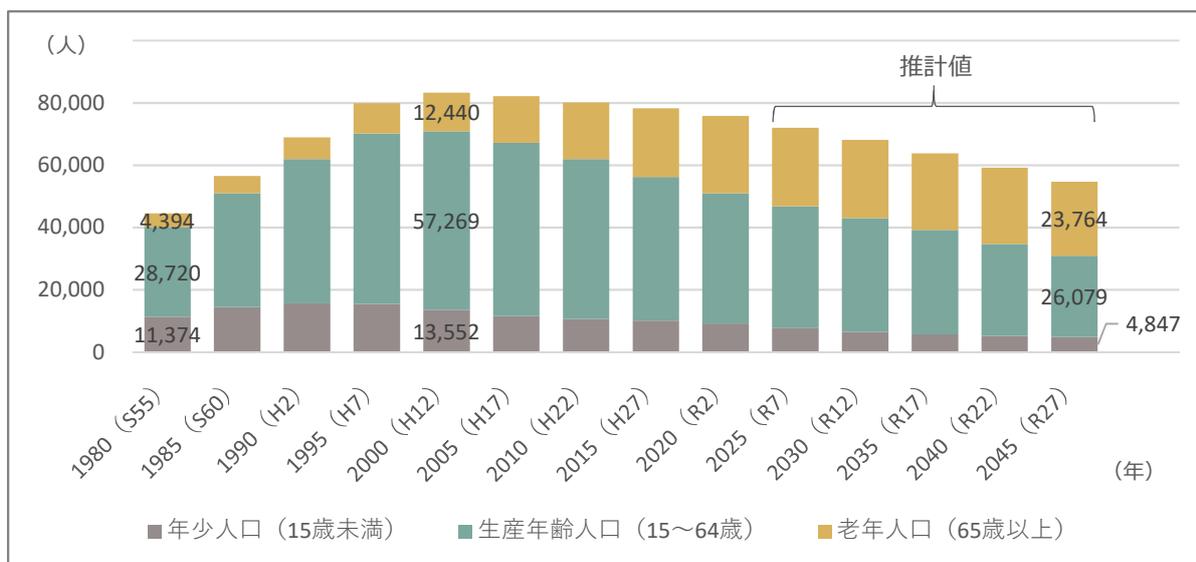
年齢階層別で見ると、年少人口・生産年齢人口が減少するのに対し、老年人口は2025（令和7）年頃まで増加を続け、2045（令和27）年には市内のほとんどの地域の高齢化率が40%以上になると推計されています。

総人口の推移と将来推計



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）』

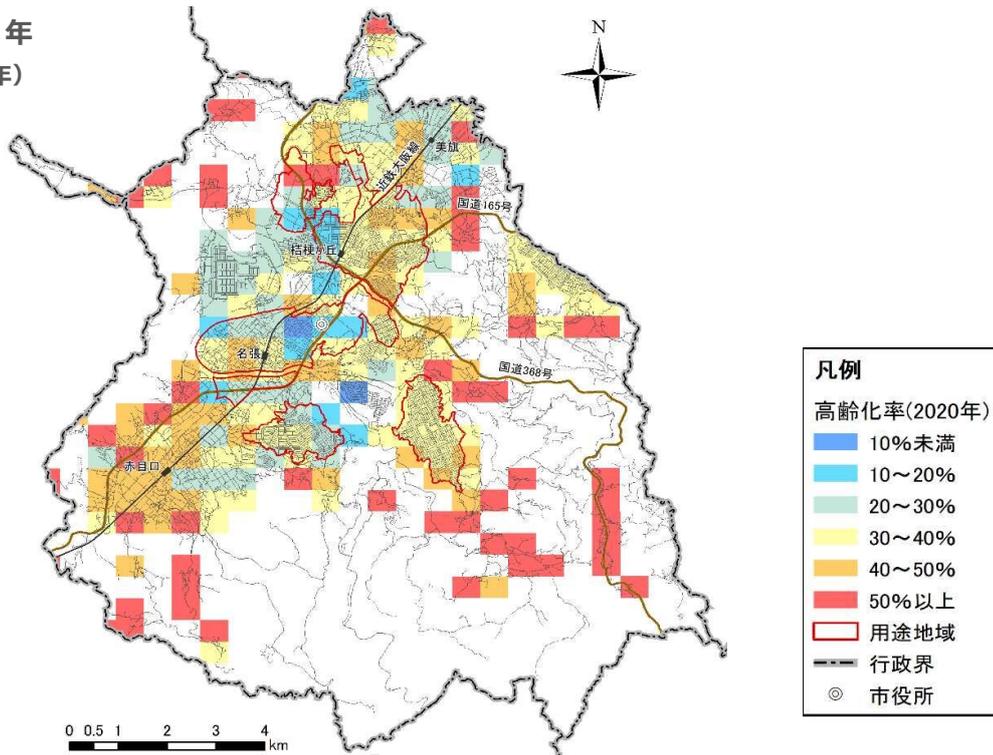
年齢階層別人口の推移と将来推計



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）』

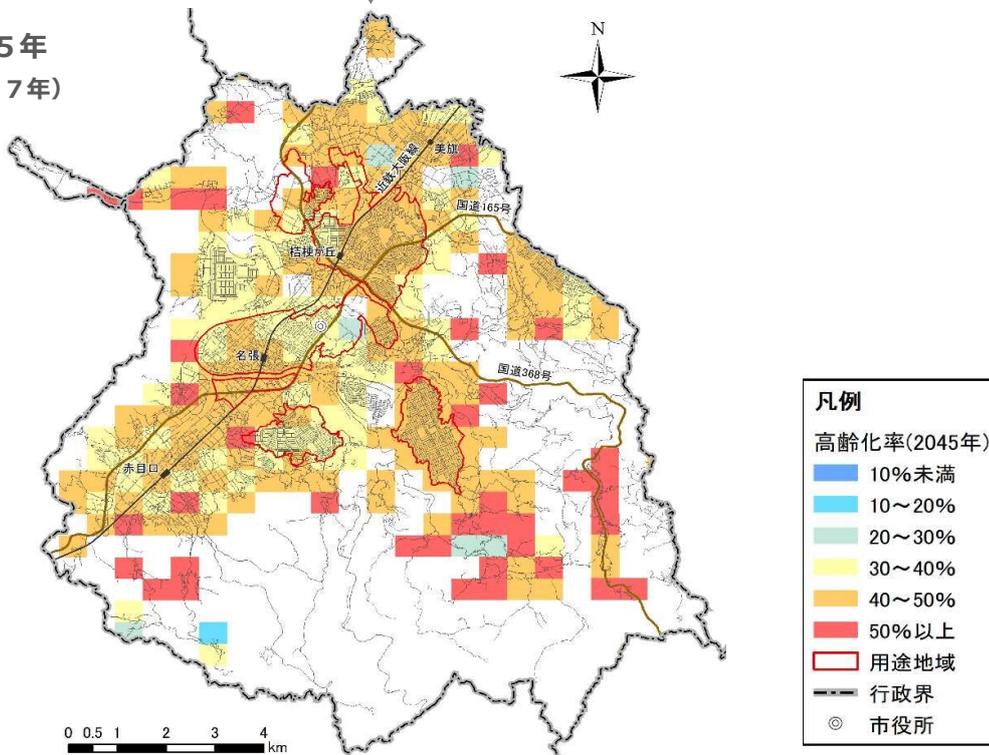
高齢化率の推移

2020年  
(令和2年)



出典：国勢調査

2045年  
(令和27年)



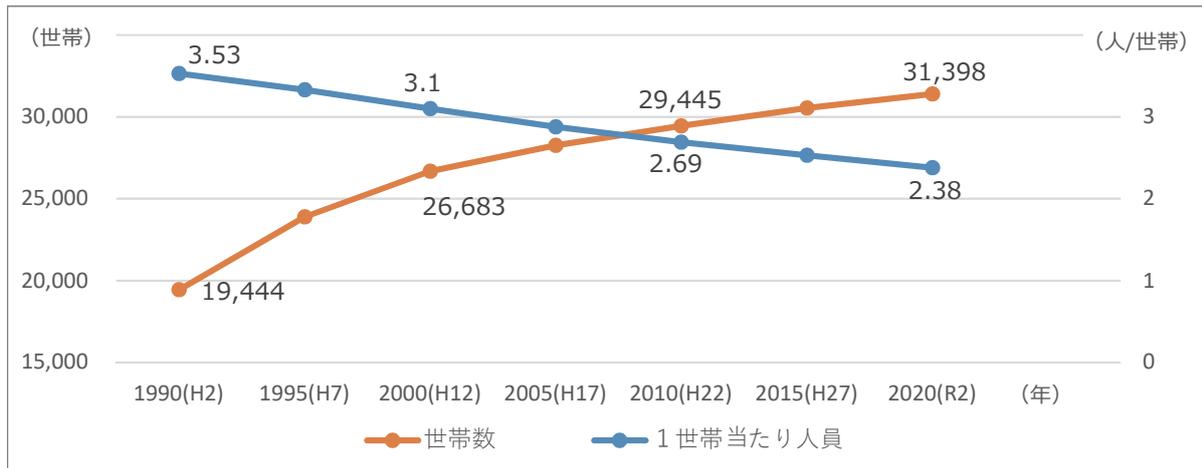
出典：国土数値情報（500m マッシュ別将来推計人口／平成30年国土交通省推計）※

※本資料は平成27年国勢調査人口を基に推計しているのに対し、9ページの「国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）』」は令和2年国勢調査人口を基に推計しているため、両者の数値は合致しません。

## (2) 世帯

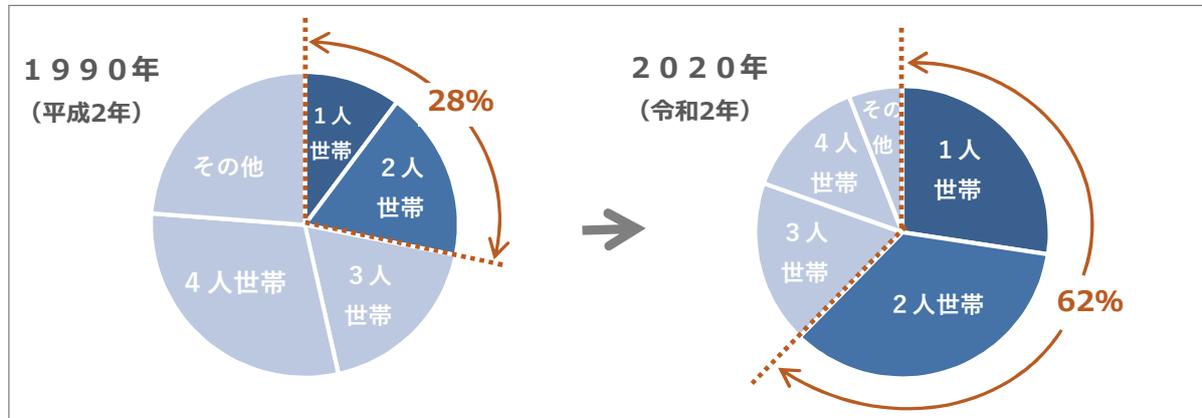
世帯数は、総人口の減少にもかかわらず2000（平成12）年以降も微増していますが、1世帯当たりの人員数は減少しています。1人世帯・2人世帯が大幅に増加し、2020（令和2）年には全体の62%を占めています。また、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の数も著しく増加しています。

### 世帯数と1世帯当たり人員の推移



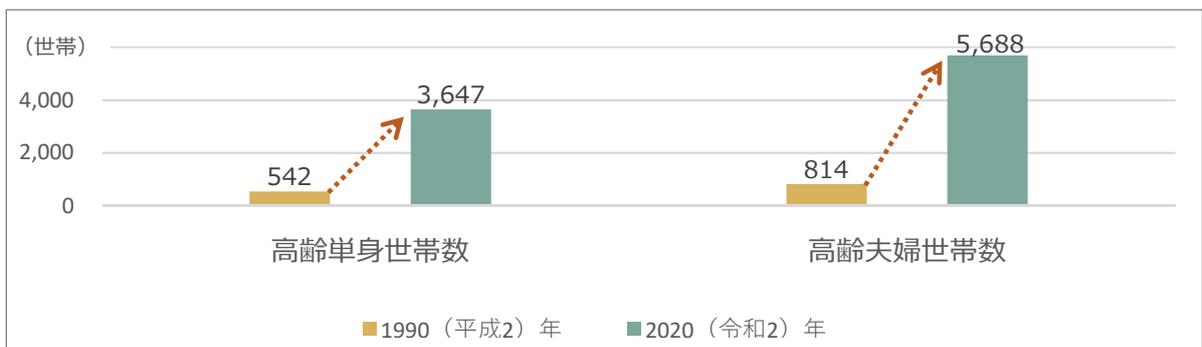
出典：国勢調査

### 世帯人員数の推移



出典：国勢調査

### 高齢者世帯数の推移



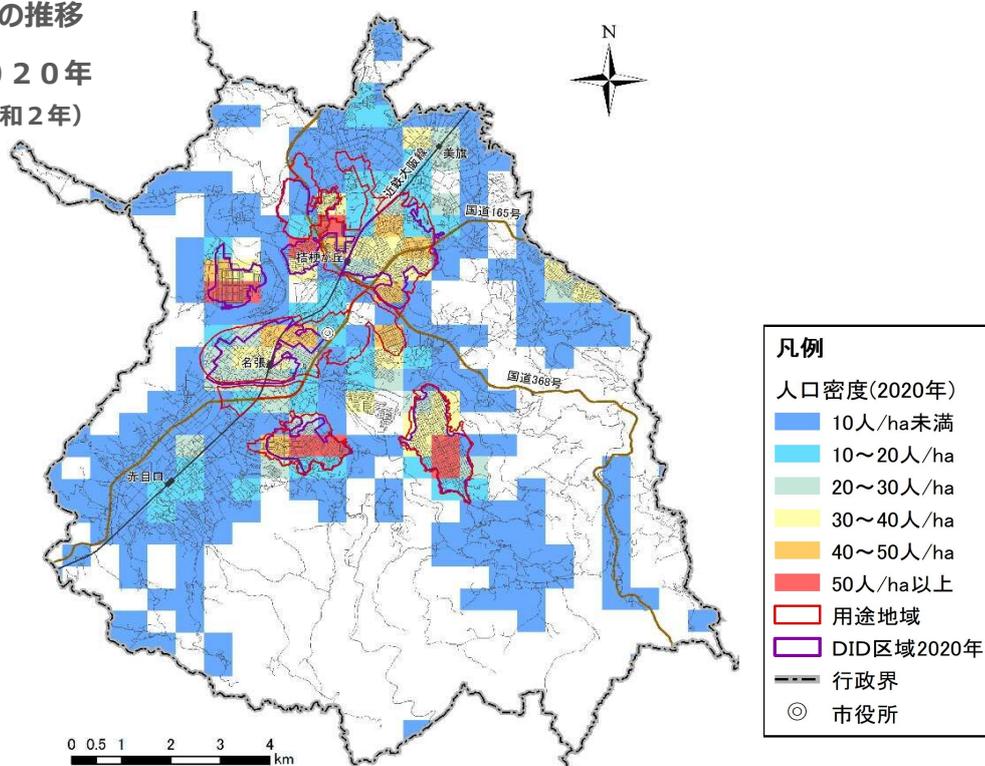
出典：国勢調査

### (3) 人口密度

2045（令和27）年にはDID（人口集中地区）を含め全体的に人口密度が低くなると推計されており、特に市の中心部の低下が顕著となっています。

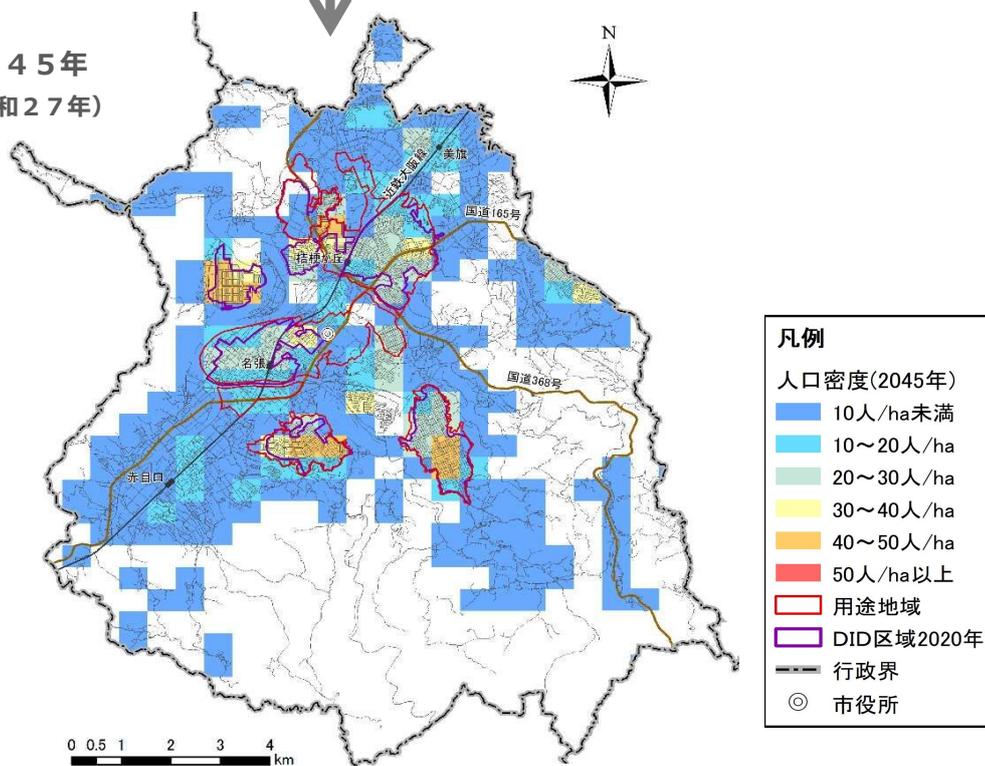
#### 人口密度の推移

2020年  
(令和2年)



出典：国勢調査

2045年  
(令和27年)



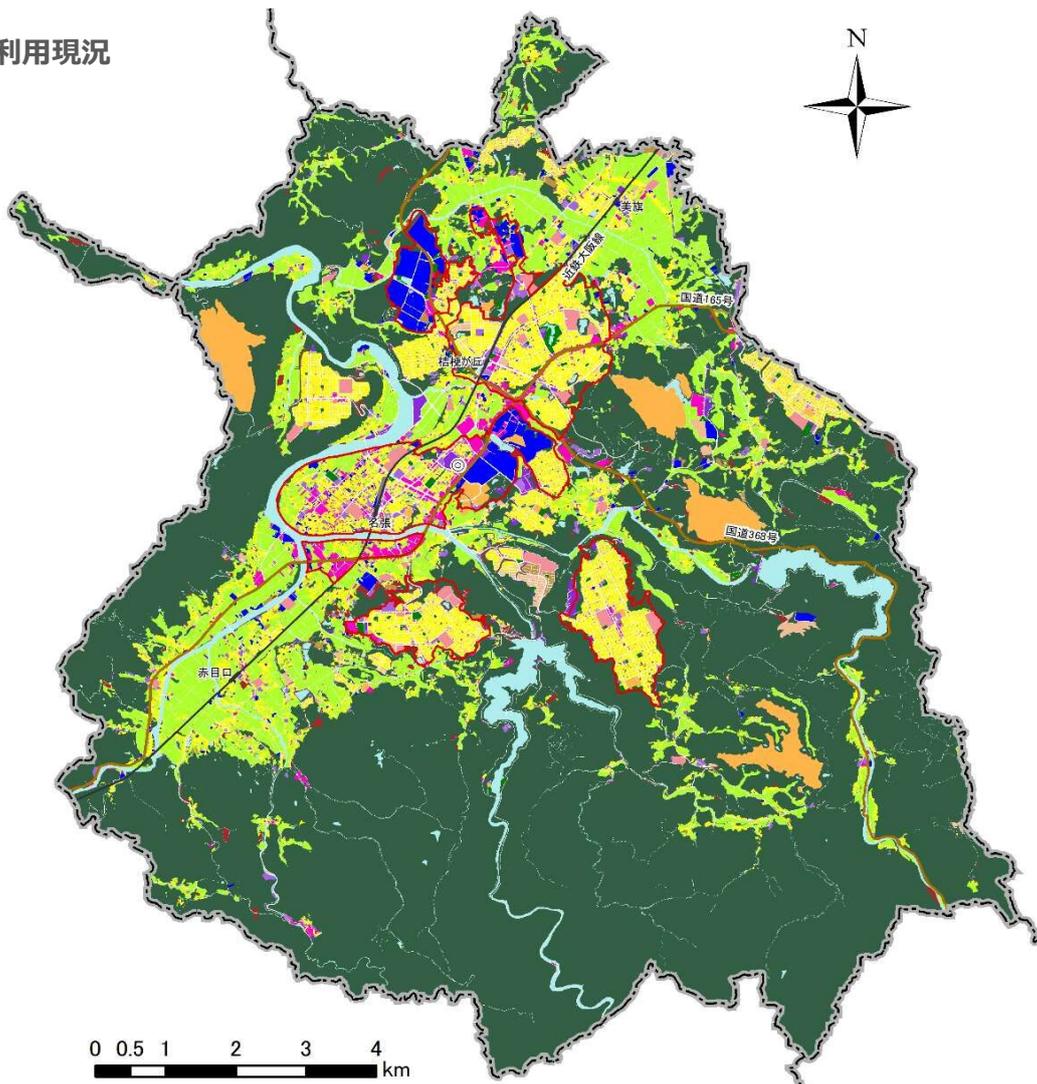
出典：国土数値情報（500m メッシュ別将来推計人口）

## 2. 土地利用

### (1) 土地利用現況と用途地域

市域の約半分が山林で、市街地を囲むように農地が広がっています。用途地域の指定は約1,316haで、総面積の約10%です。人口10万人以下の都市の平均と比べると第一種低層住居専用地域や第二種住居地域、近隣商業地域が多く、工業系の用途地域が少ないのが特徴です。

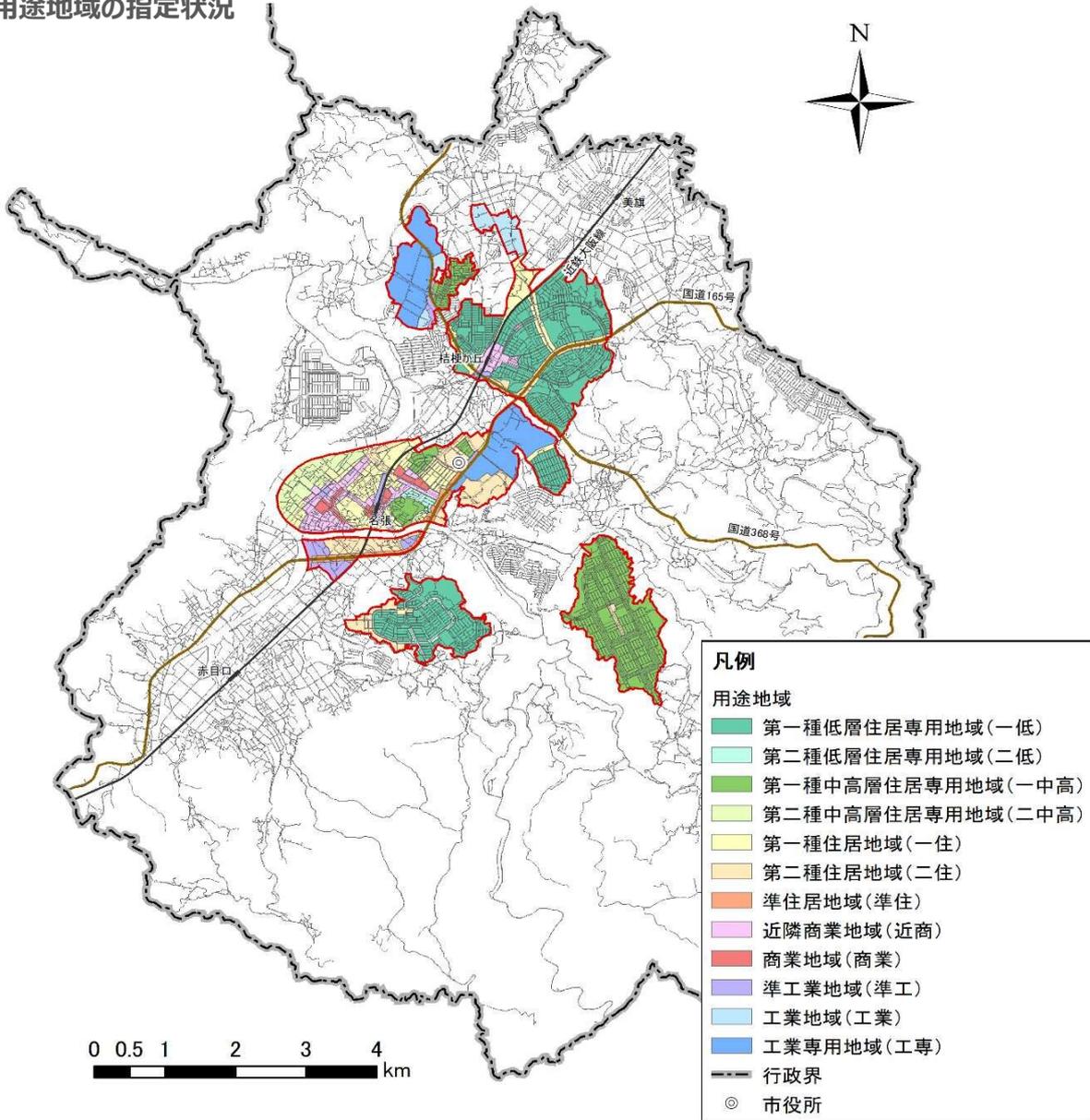
#### 土地利用現況



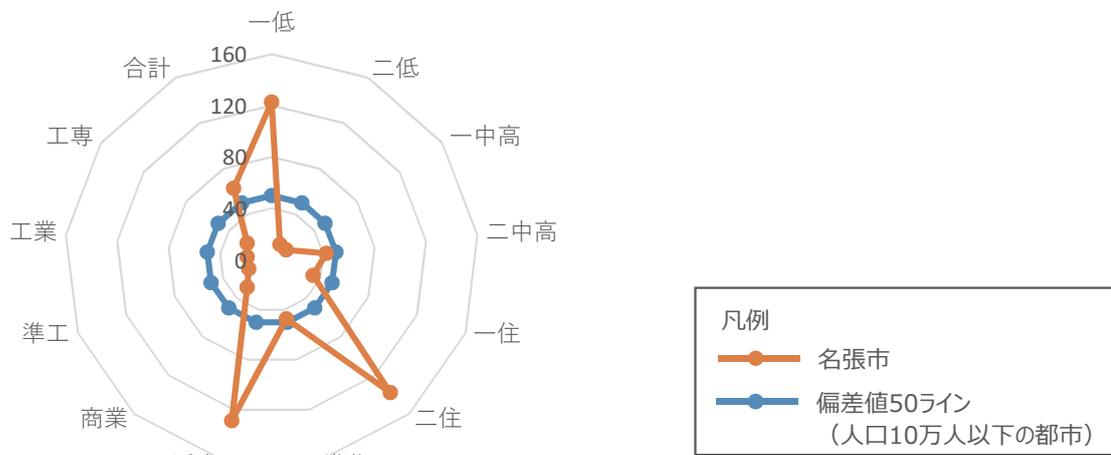
凡例			
土地利用区分	工業系	鉄道	用途地域
農地	公共施設用地	その他1	行政界
山林	公益施設用地	その他2	◎ 市役所
原野	教育施設用地	その他3	
水面	レクリエーション施設用地	太陽光発電用地	
住居系	公園緑地	道路	
商業系			

出典：平成30年度都市計画基礎調査より一部加工

用途地域の指定状況



用途地域別面積の比較



出典：都市モニタリングシート

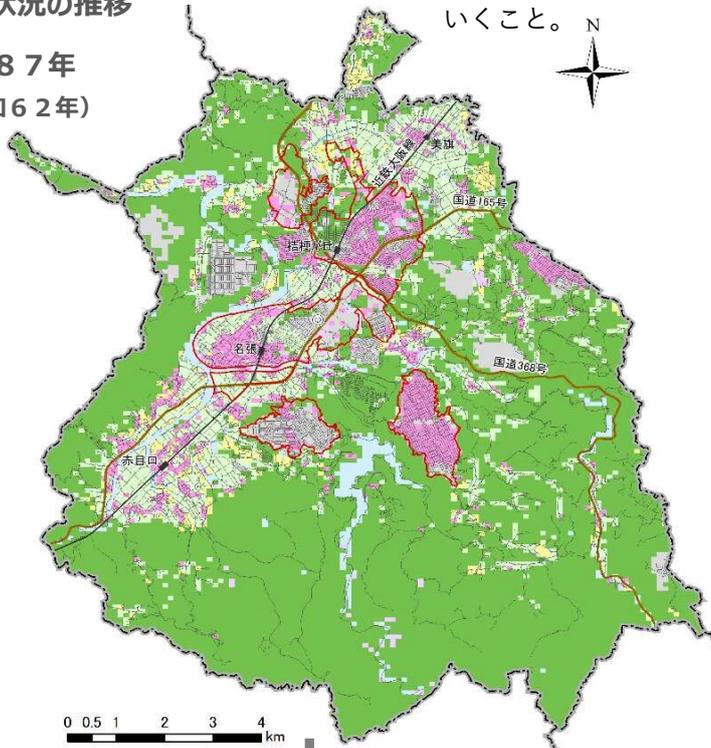
## (2) 宅地の状況

おおよそ30年の間に、建物用地が著しく増加していることがわかります。このように、広がった都市のまま人口が減少していくことによって都市のスポンジ化※が進み、にぎわいの喪失などが懸念されます。

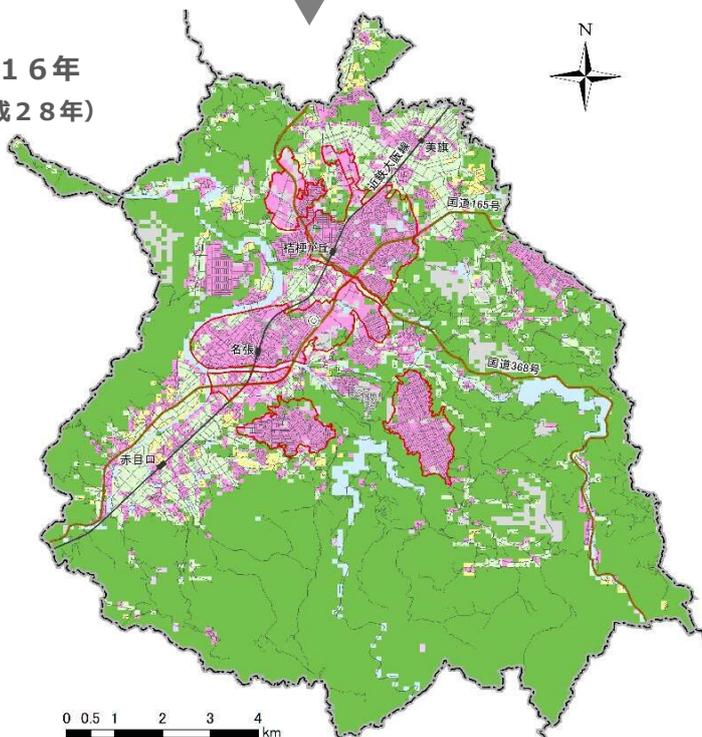
※都市のスポンジ化とは、都市の大きさが変わらないにもかかわらず人口が減少し、都市内に使われない空間が小さい穴が開くように生じ、密度が下がっていくこと。

### 土地利用状況の推移

1987年  
(昭和62年)



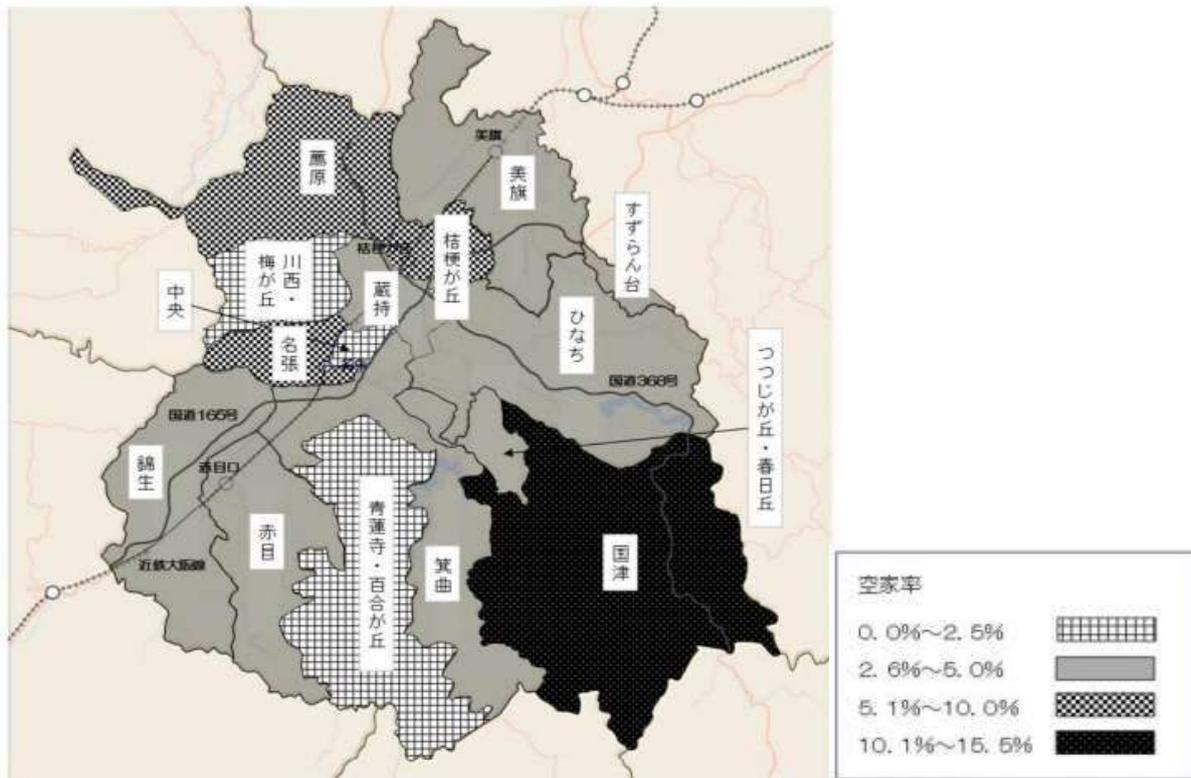
2016年  
(平成28年)



出典：国土数値情報

空き家率は国津地域や薦原地域のほか、市の中心部である名張地域や桔梗が丘地域でも高い状況となっています。

地域別空き家等状況

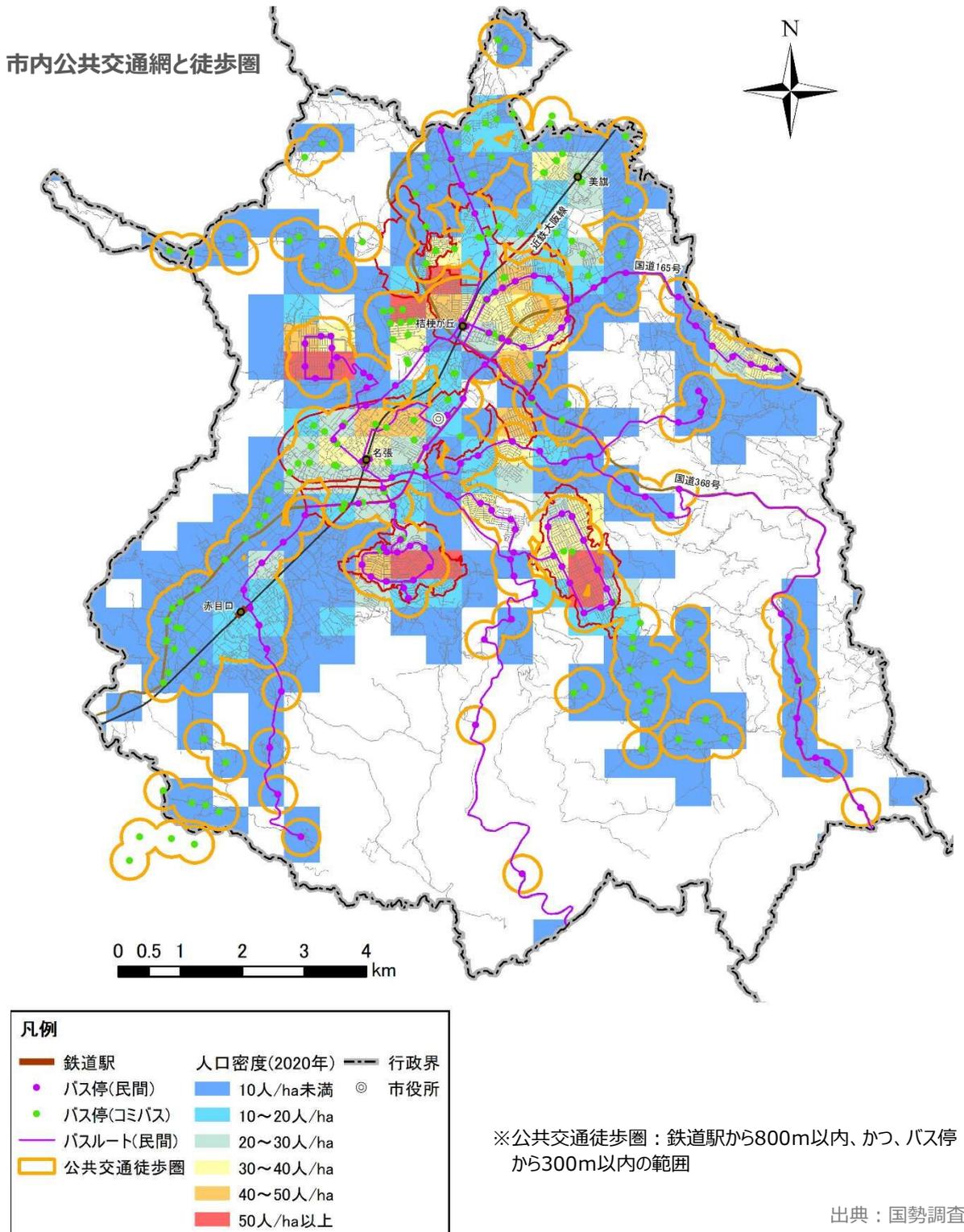


出典：名張市空家等対策計画

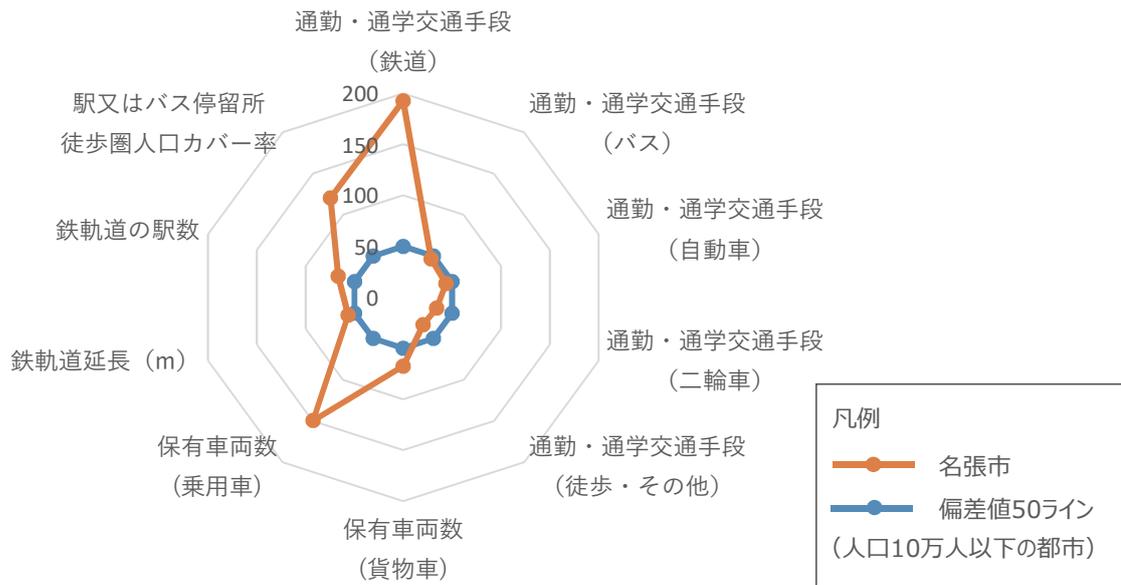
### 3. 公共交通

公共交通の徒歩圏は、市街地等のほぼ全域をカバーしています。人口10万人以下の都市の平均と比べると通勤・通学手段として鉄道を利用する人は非常に多いですが、路線バス等も含め公共交通の利用者数は年々減少しています。

市内公共交通網と徒歩圏

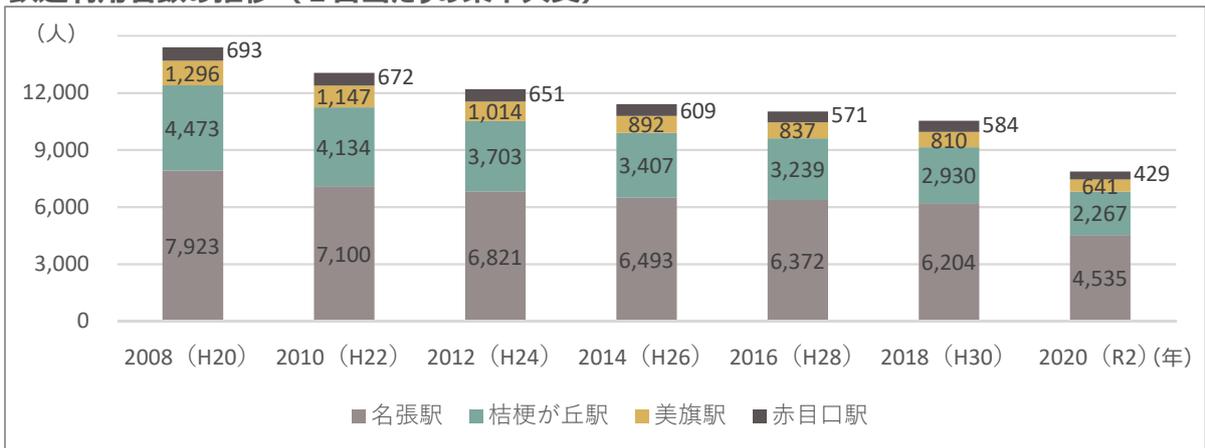


### 通勤・通学の交通手段分担率等の比較



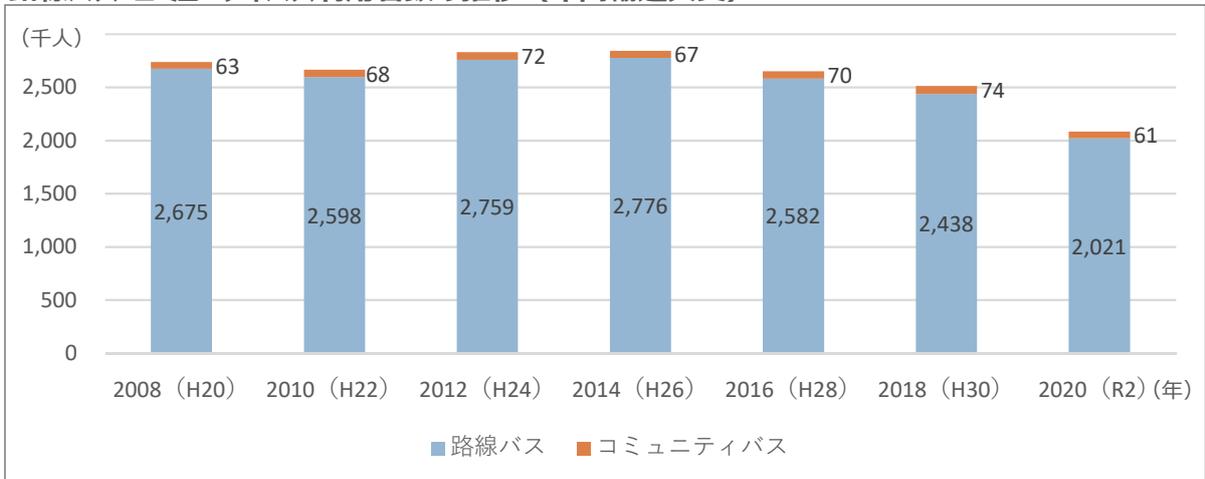
出典：都市モニタリングシート

### 鉄道利用者数の推移 (1日当たりの乗車人員)



出典：近畿日本鉄道株式会社

### 路線バス・コミュニティバス利用者数の推移 (年間輸送人員)



出典：三重交通株式会社、名張市

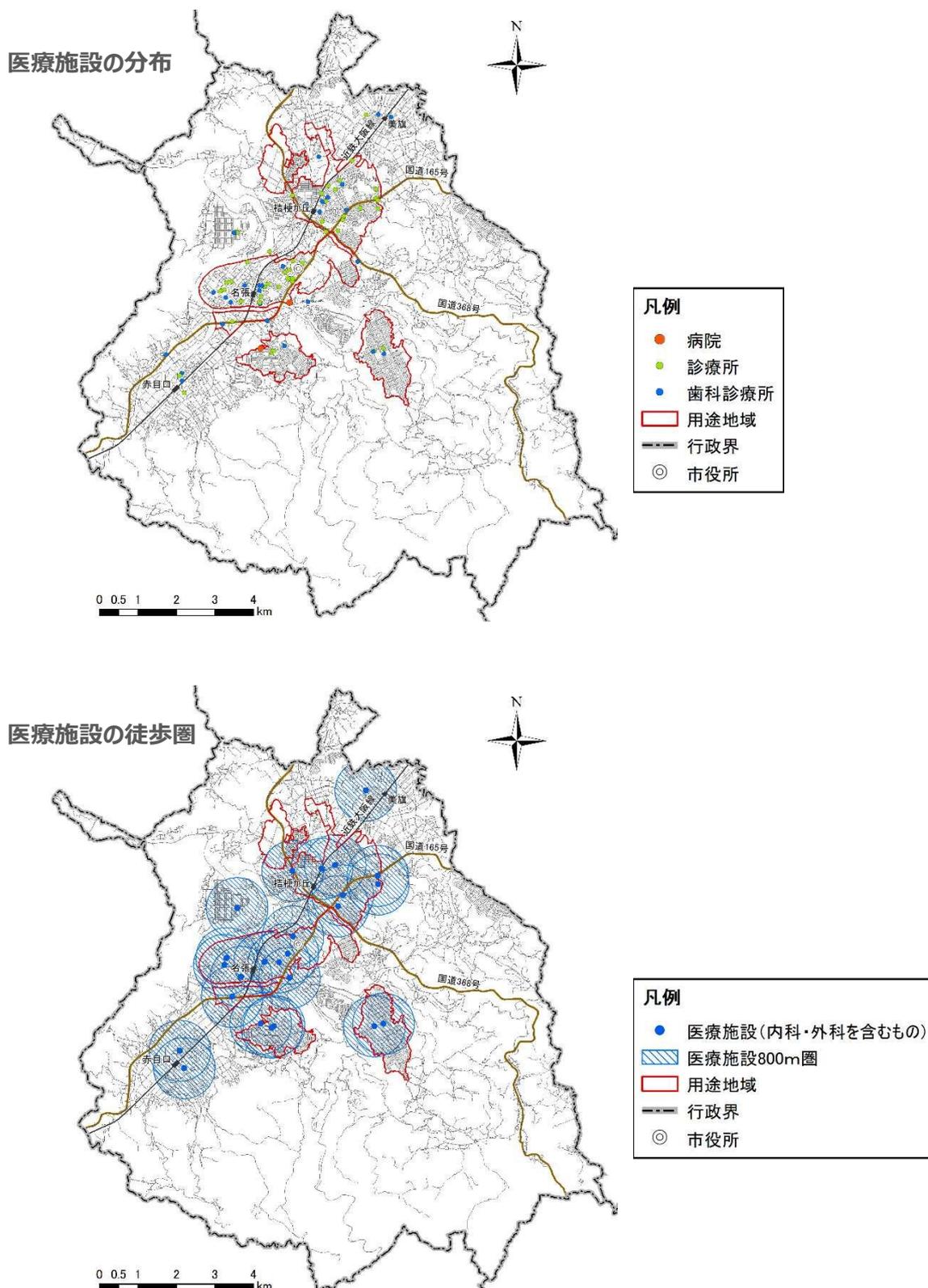
## 4. 都市機能施設

ここでは各種都市機能施設（生活サービス施設）のうち、下表の施設の分布状況や徒歩圏のカバー状況を見ていきます。

施設の種類	出典・内容
医療施設	名張市在宅医療支援センター『在宅医療資源マップ』に掲載されている医療機関（2023（令和5）年1月1日現在）
福祉施設（高齢者）	『名張市内介護保険施設等一覧（2023（令和5）年1月1日現在）』に掲載されている施設。「入所系」施設には、短期入所、宿泊サービスのある小規模多機能型居宅介護、高齢者住宅を含みます。
福祉施設（障がい者（児））	三重県の『障害福祉サービス等指定事業所一覧（2023（令和5）年1月1日現在）』に掲載されている施設。「入所系」施設には、短期入所、共同生活援助を含みます。
福祉施設（その他）	児童養護施設、子ども発達支援センター
教育施設	小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、特別支援学校、教育センター（2023（令和5）年1月1日現在）
子育て支援施設	保育所、幼稚園、認定こども園、地域型保育事業所、子育て支援センター（2023（令和5）年1月1日現在）
商業施設	<p>市内にある買い物施設のうち、以下に該当するもの（2023（令和5）年1月1日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食品スーパー…食料品の販売額が全体の70%以上で、売場面積が250㎡以上の事業所</li> <li>○ドラッグストア…主として医薬品、化粧品を中心とした健康及び美容に関する各種の商品を中心として、家庭用品、加工食品などの最寄品をセルフサービス方式によって小売する事業所</li> <li>○コンビニエンスストア…飲食料品を扱い、売場面積30㎡以上250㎡未満で、営業時間が14時間以上の事業所</li> </ul>

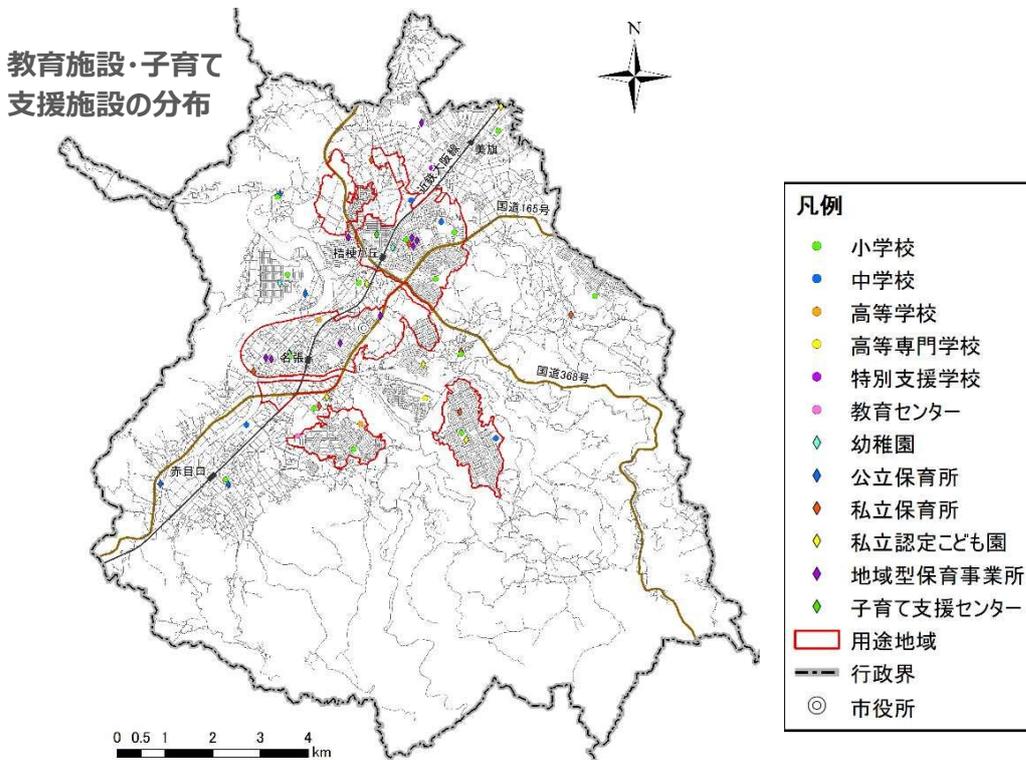
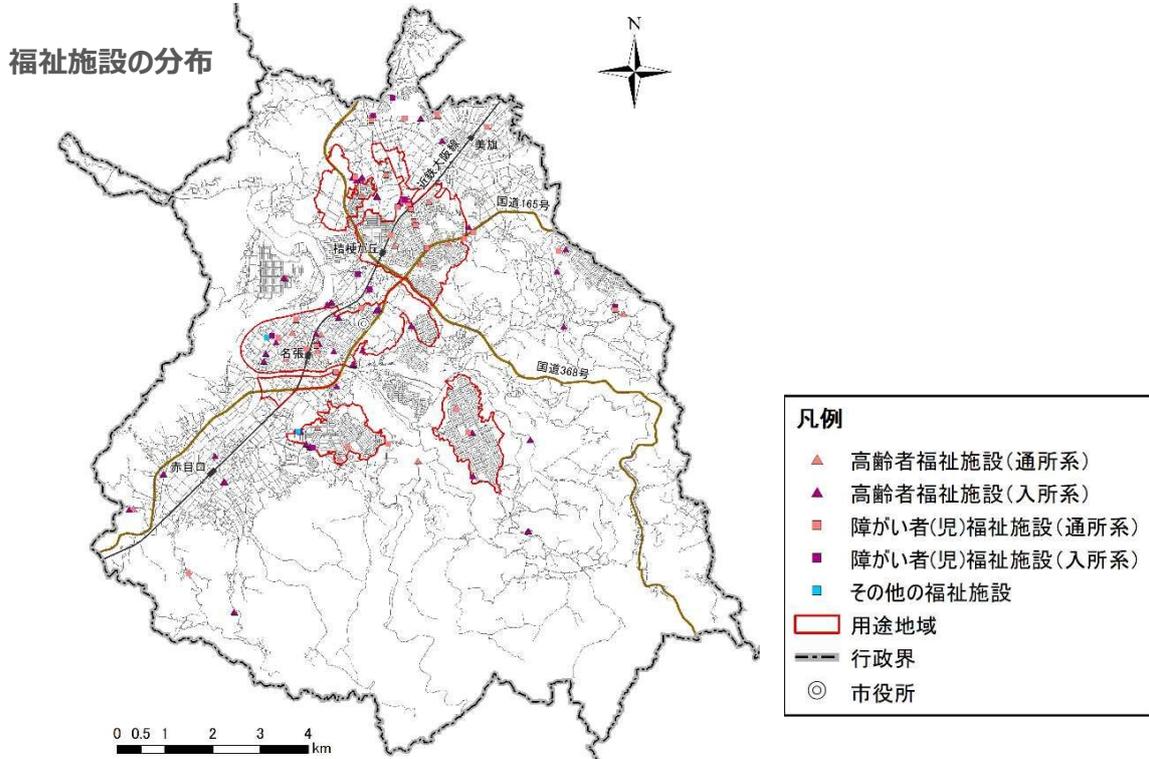
## (1) 医療施設

病院は2か所、診療所は約50か所ありますが、分布は用途地域内に集中しており、医療施設徒歩圏（半径800m圏）では、カバーできていない住宅地等もあります。



## (2) 福祉施設・教育施設・子育て支援施設

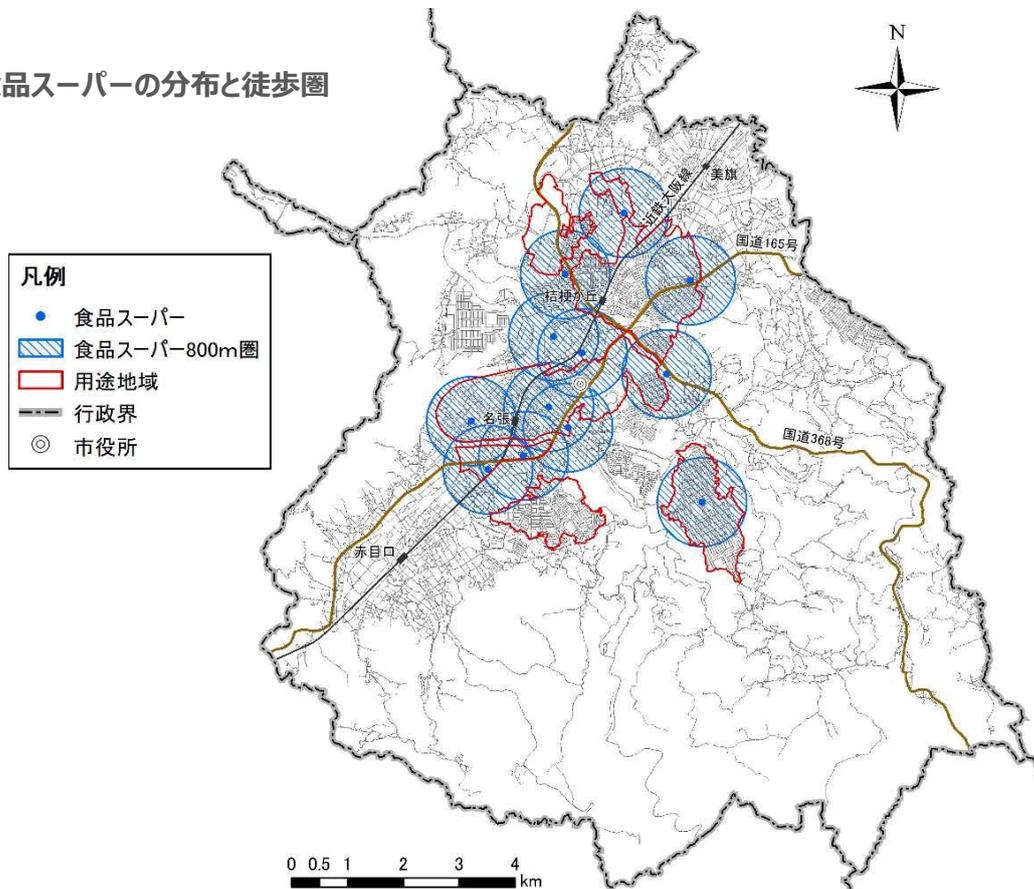
福祉施設のうち、特に高齢者の通所系の福祉施設は市内全域に分布しています。小中学校や子育て支援施設も用途地域に限らず全域に分布しています。



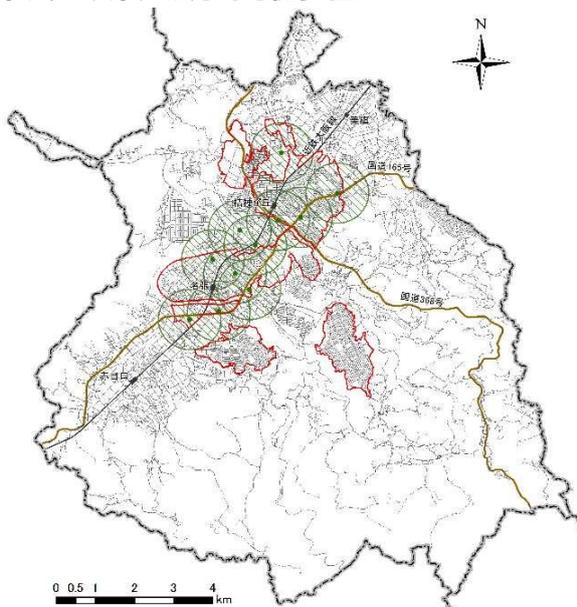
### (3) 商業施設

食品スーパーの徒歩圏は市の中心部をほぼカバーしています。桔梗が丘や百合が丘の空白域は、ドラッグストアやコンビニエンスストアで補完されています。

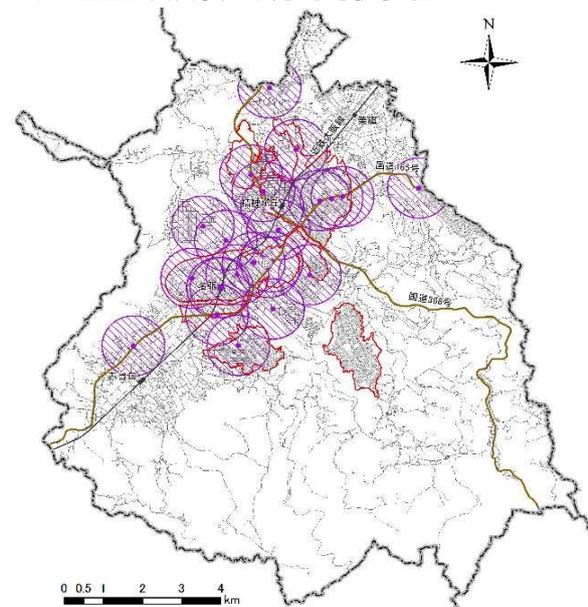
食品スーパーの分布と徒歩圏



ドラッグストアの分布と徒歩圏



コンビニエンスストアの分布と徒歩圏

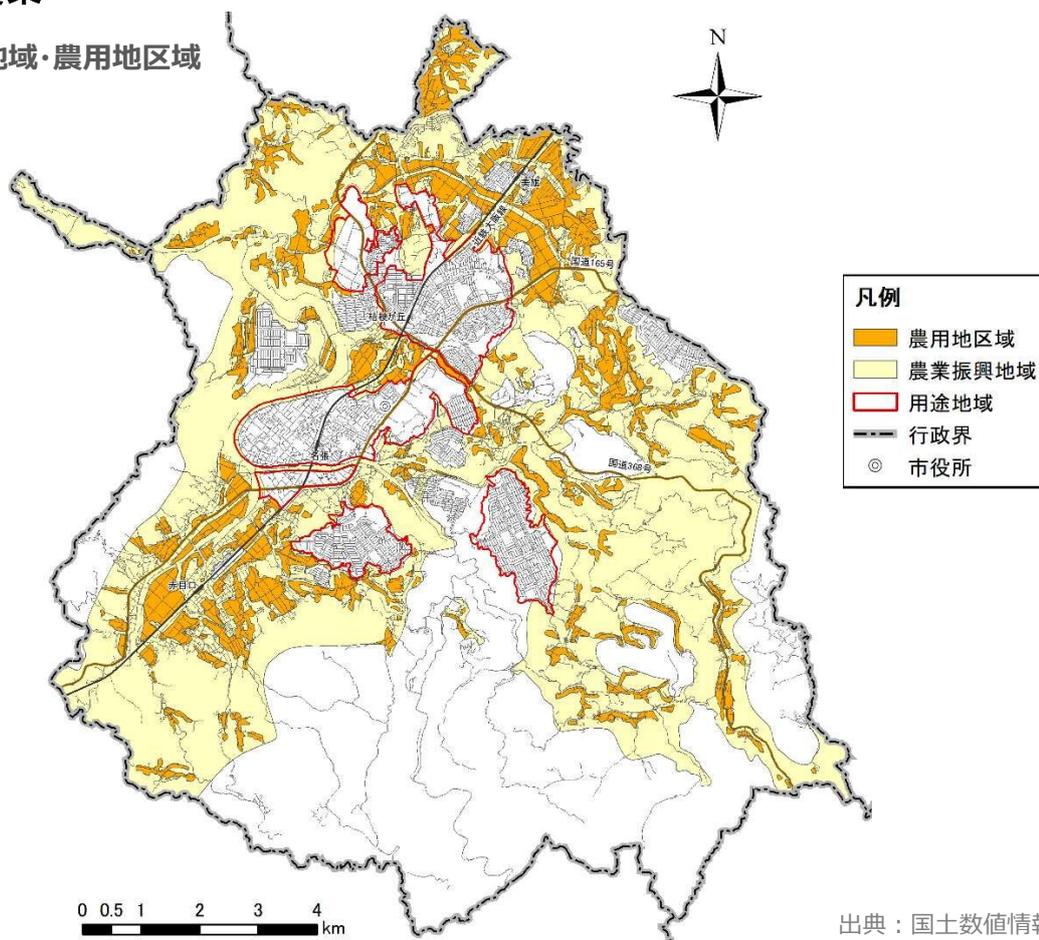


## 5. 産業

農家数・経営耕地面積が減少傾向である一方、農地から宅地への農地転用は増加傾向にあります。事業所数の推移は1～4か所の増減が広範囲に分布していますが、桔梗が丘などでは20か所以上減少している区域もあります。

### (1) 農業

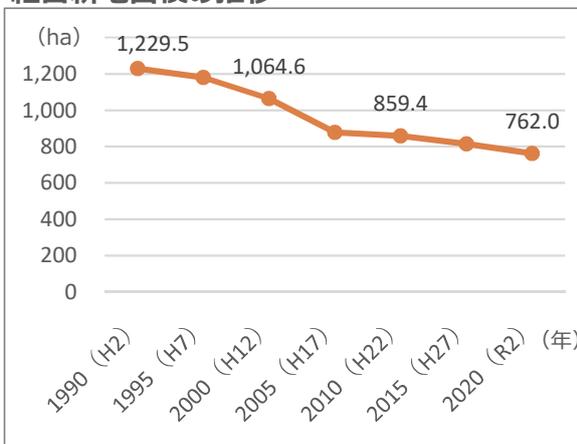
#### 農業振興地域・農用地区域



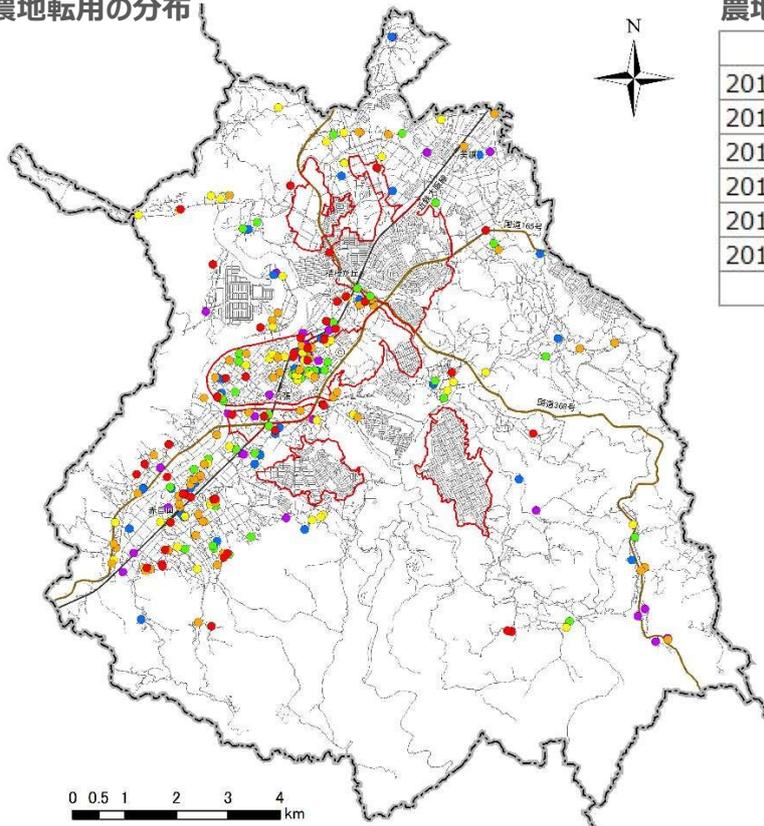
#### 農家数の推移



#### 経営耕地面積の推移



農地転用の分布



農地転用の推移

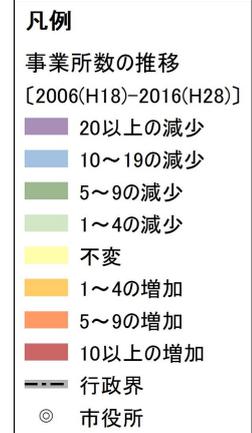
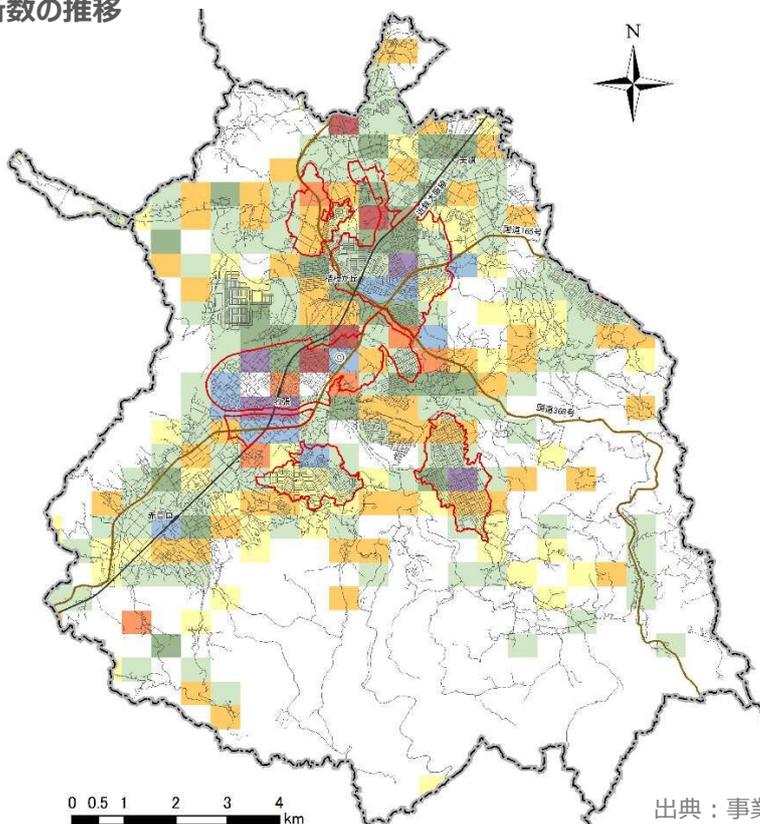
	箇所数	面積 (ha)
2010(H22)年度	35	1.48
2011(H23)年度	41	2.8
2012(H24)年度	47	2.32
2013(H25)年度	54	3.5
2014(H26)年度	67	5.16
2015(H27)年度	51	6.48
合計	295	21.74



出典：平成28年度都市計画基礎調査

(2) 事業所数

事業所数の推移



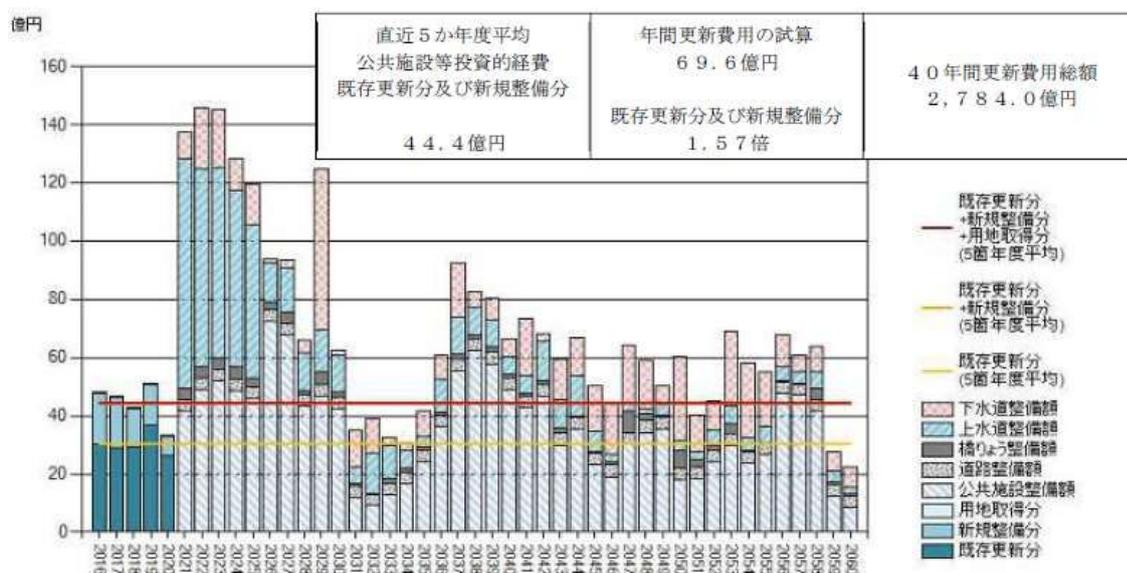
出典：事業所・企業統計調査、経済センサス

## 6. 公共施設・財政

公共施設等（公共建築物とインフラ施設）の将来更新費用は、今後40年間で総額2,784億円（長寿命化した場合は2,076億円）と推計されています。人口減少や高齢化の影響を受けやすい費目である個人市民税は減少傾向、扶助費は増加傾向となっています。

### （1）公共施設

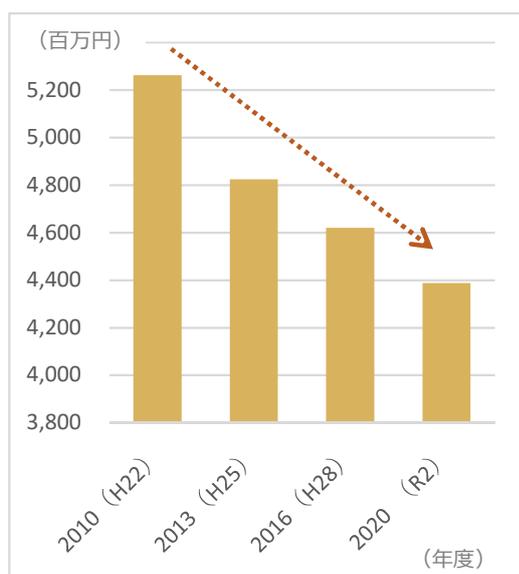
#### 公共施設等の将来更新費用の推計



出典：名張市公共施設等総合管理計画

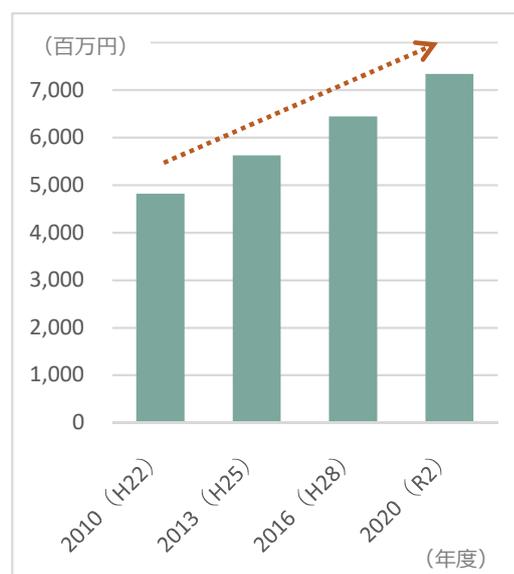
### （2）財政

#### 個人住民税（市民税）の推移



出典：財政状況資料集

#### 扶助費の推移



出典：財政状況資料集

## 7. 市民意識

### (1) 市民意識調査（抜粋）

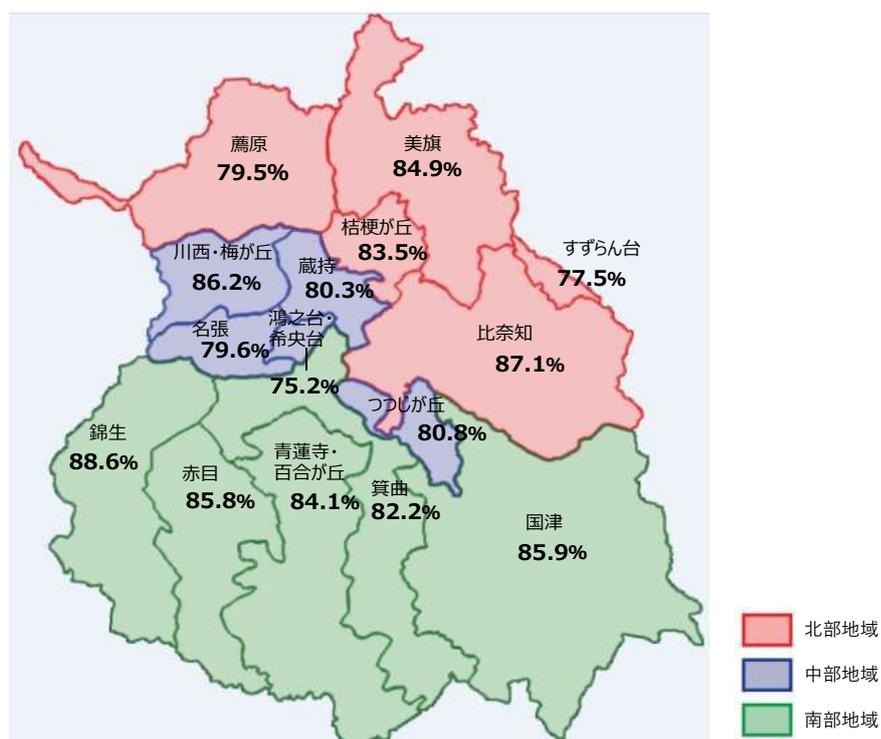
2023（令和5）年度の市民意識調査によると、名張市の住みやすさや市内での継続居住については80%以上が肯定的な回答となっています。過去4年間の平均を地域別に見ると、交通や買物・食事などの日常生活の利便性については中心部の地域が高いものの、居住継続の意思については郊外部の方が高い結果となっています。

**2023（令和5）年度** ※有効回収数：1,121人

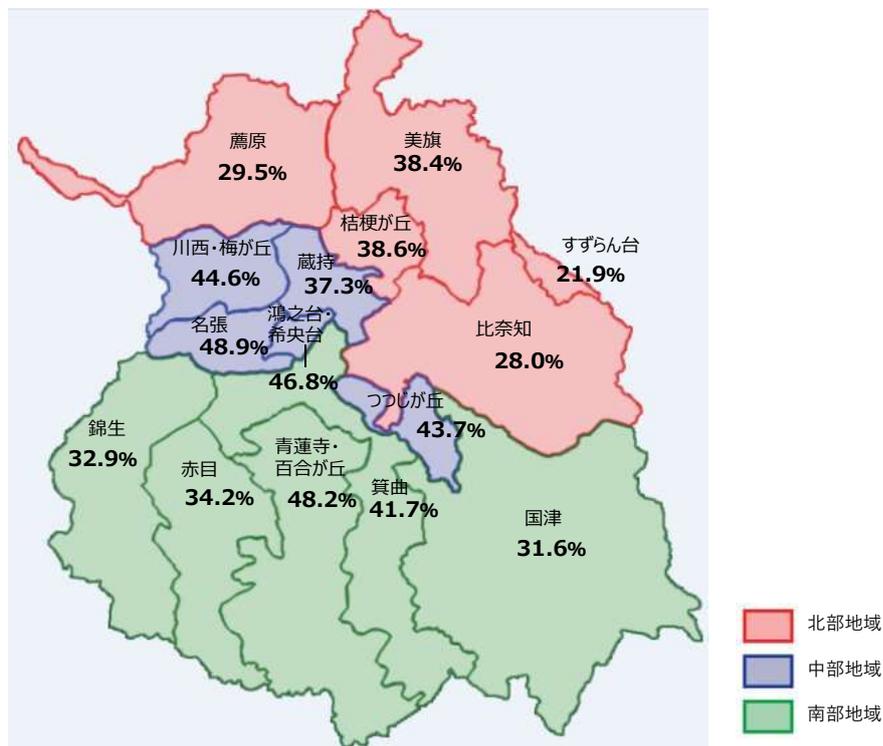
・名張市が「住みよい」「どちらかといえば住みよい」とする市民の割合	80.3%
・名張市に「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」 「市内の別の地区に移りたい」とする市民の割合 →地域別①	82.2%
・秩序ある土地利用が行われていると感じる市民の割合	49.3%
・居住地域における街並みなどの景観がよいと感じている市民の割合	71.8%
・安心して暮らし続けることができる住環境にあると感じている市民の割合	60.4%
・公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合 →地域別②	37.1%
・市内の道路整備や道路環境について満足している市民の割合	47.0%
・買物や食事などの日常生活の利便性に満足している市民の割合 →地域別③	69.0%

**地域別** ※2020（令和2）年度～2023（令和5）年度の平均

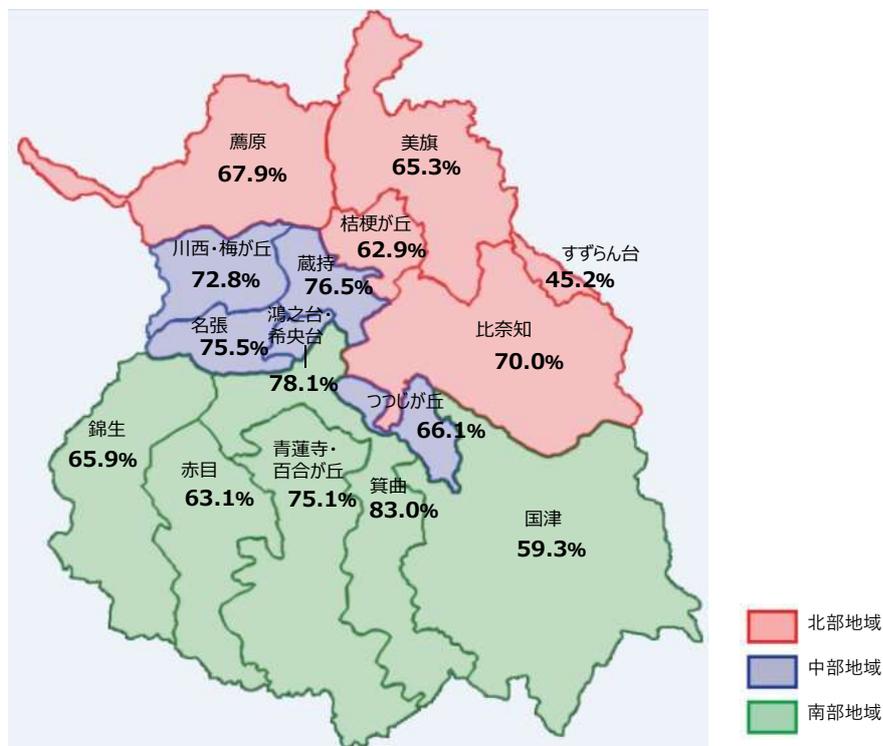
①名張市に「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」「市内の別の地区に移りたい」とする市民の割合



②公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合



③買物や食事などの日常生活の利便性に満足している市民の割合



## (2) 立地適正化計画策定のための中学生アンケート（抜粋）

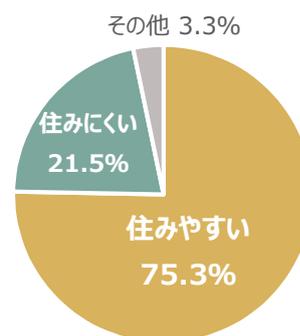
有効回収数：市内中学3年生 769人（2021（令和3）年度～2022（令和4）年度）

次世代を担う若い世代の意見を本計画の策定に反映させることを目的として、市内の中学3年生を対象にアンケートを実施しました。住んでいる地域が住みやすいという回答は75%以上となっていますが、将来も名張市に住みたいという回答は半数を下回っています。住みやすさの理由や将来の名張市の望ましい姿として、自然豊かで生活環境が良いからという回答が多い結果となっています。

### 【居住地域の住みやすさ】

Q あなたの住んでいる地域は住みやすいですか。

1 住みやすい	75.3%
2 住みにくい	21.5%
3 その他	3.3%



Q 「住みやすい」を選んだ理由を1つ選んでください。

1 自然が豊かで生活環境が良いから	38.3%
2 地域の人々が親切だから	19.0%
3 買い物などの日常生活が便利だから	16.8%
4 災害や犯罪などが少なく安心だから	14.7%
5 交通が便利だから	7.6%
6 遊ぶ場所が充実しているから	2.8%
7 スポーツ、レジャー、教育・文化施設が充実しているから	0.3%
8 その他	0.5%

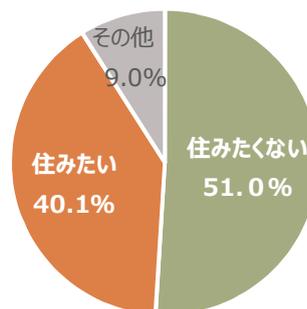
Q 「住みにくい」を選んだ理由を1つ選んでください。

1 遊ぶ場所が不十分だから	44.2%
2 買い物などの日常生活が不便だから	23.6%
3 交通が不便だから	21.2%
4 スポーツ、レジャー、教育・文化施設が不十分だから	4.8%
5 災害や犯罪などの対策が不十分だから	1.2%
6 地域の人々が不親切だから	0.6%
7 自然が少なく生活環境が良くないから	0.0%
8 その他	4.2%

【居住継続の意思】

Q あなたは、将来名張市に住みたいと思いますか。  
 または、進学等でいったん名張市を離れたあとに、  
 また名張市に帰ってきて住みたいと思いますか。

1 住みたくない	51.0%
2 住みたい	40.1%
3 その他	9.0%



Q 「住みたくない」を選んだ理由を2つ選んでください。

1 違うところに住んでみたいから	77.3%
2 働く場所が少ないから（働きたいところがないから）	48.5%
3 買い物などの日常生活が不便だから	26.8%
4 子育てや老後の生活がしにくそうだから	6.6%
5 家族や親戚も住んでいないと思うから	3.3%
6 災害や犯罪などの対策が不十分だから	1.0%
7 自然が少なく生活環境が良くないから	0.8%
8 その他	4.6%

Q 「住みたい」を選んだ理由を2つ選んでください。

1 家族や親戚が住んでいるから	63.0%
2 ふるさとに帰ってきたいから	31.8%
3 自然が豊かで生活環境が良いから	31.5%
4 災害や犯罪などが少なく安心だから	22.1%
5 買い物などの日常生活が便利だから	9.4%
6 子育てや老後の生活がしやすそうだから	7.1%
7 名張市で働きたいから	7.1%
8 その他	1.3%

## 【名張市の将来について】

Q 名張市は、将来どのような方向で発展することが望ましいと思いますか。  
3つ選んでください。

1 自然が豊かで環境に配慮したまちづくり	44.5%
2 電車やバスなどの公共交通などが充実した移動しやすいまちづくり	35.6%
3 身近に学びの場所（教育・文化施設）や公園などが充実し、スポーツやレクリエーションなどが楽しめるまちづくり	30.3%
4 中心市街地に住宅や店舗、病院、公共施設がコンパクトにまとまっていて便利に暮らせるまちづくり	28.6%
5 居心地が良く、歩いて暮らせるまちづくり	26.0%
6 土砂災害、水害、地震などの災害に強く安心して暮らせるまちづくり	22.5%
7 子育て中の人、お年寄り、障がいのある人も暮らしやすい医療や福祉が充実した健康福祉のまちづくり	20.5%
8 道路や下水道などが整備された住みやすいまちづくり	18.1%
9 自然、歴史、文化などを生かした観光が盛んなまちづくり	14.2%
10 多様な人々が交流できる空間があるまちづくり	10.1%
11 農地や森林が守られる農林業が盛んなまちづくり	7.7%
12 健康づくりのためのウォーキングや歴史的な街並みなどを散策できるまちづくり	6.0%
13 工場などの働く場所が多い、産業が盛んなまちづくり	2.7%
14 その他	1.4%

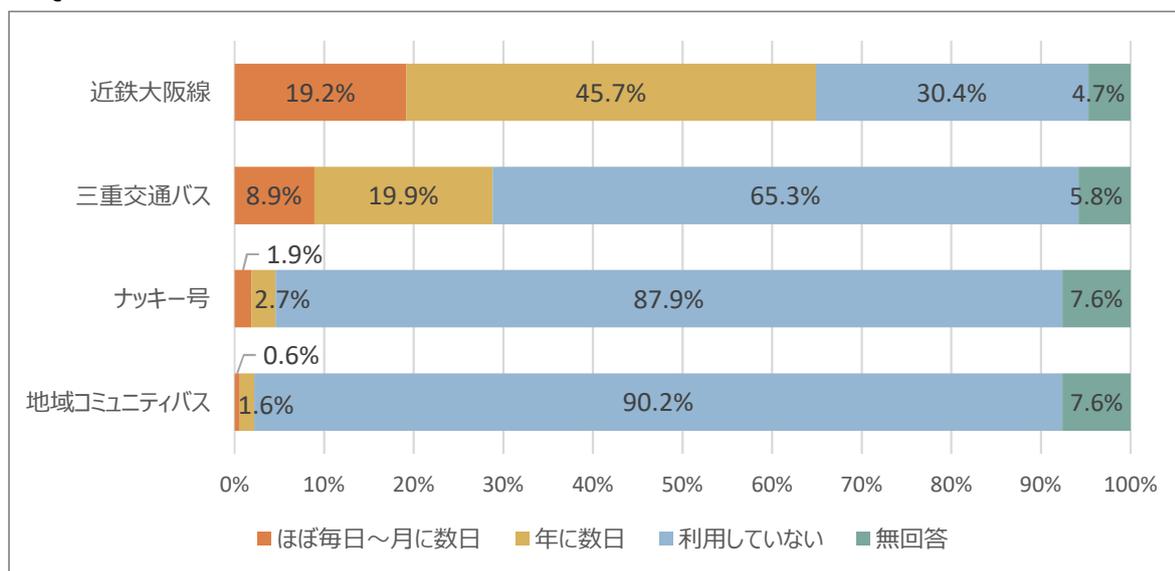
※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。  
※複数回答の質問は、合計が100%を超えます。

### (3) 名張市の地域公共交通に関する市民アンケート（抜粋）

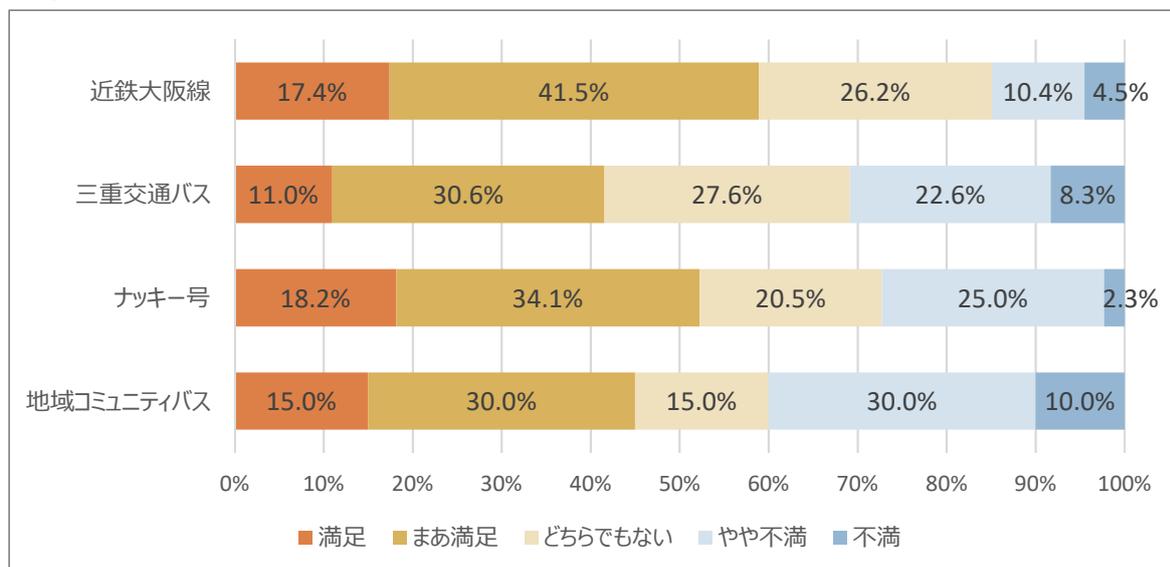
有効回収数：1,245人（2021（令和3）年8月実施）

公共交通の利用頻度は近鉄大阪線が最も多く、現状の満足度は近鉄大阪線とナッキー号（市街地循環型コミュニティバス）で「満足」「まあ満足」という回答が半数を超えています。自動車の利用状況が非常に多く、平日の主な移動手段についても自動車（自分で運転）が最も多い回答結果でした。主な外出の目的は平日・土日祝日ともに買い物が多く、よく訪れている買い物施設を地域別で見ると、南部地域からは箕曲地域にある施設の利用が最も多く、桔梗が丘地域からは別の地域のスーパーへ行っている人が多いことがわかりました。

Q公共交通の利用頻度



Q現状の満足度



## Q 年齢別の自動車の利用状況

1 ほとんどの外出で自動車を使っている	<b>82.0%</b>
2 時々自動車を使っている	9.6%
3 自動車を利用することはほとんどない	4.1%
4 無回答	4.3%

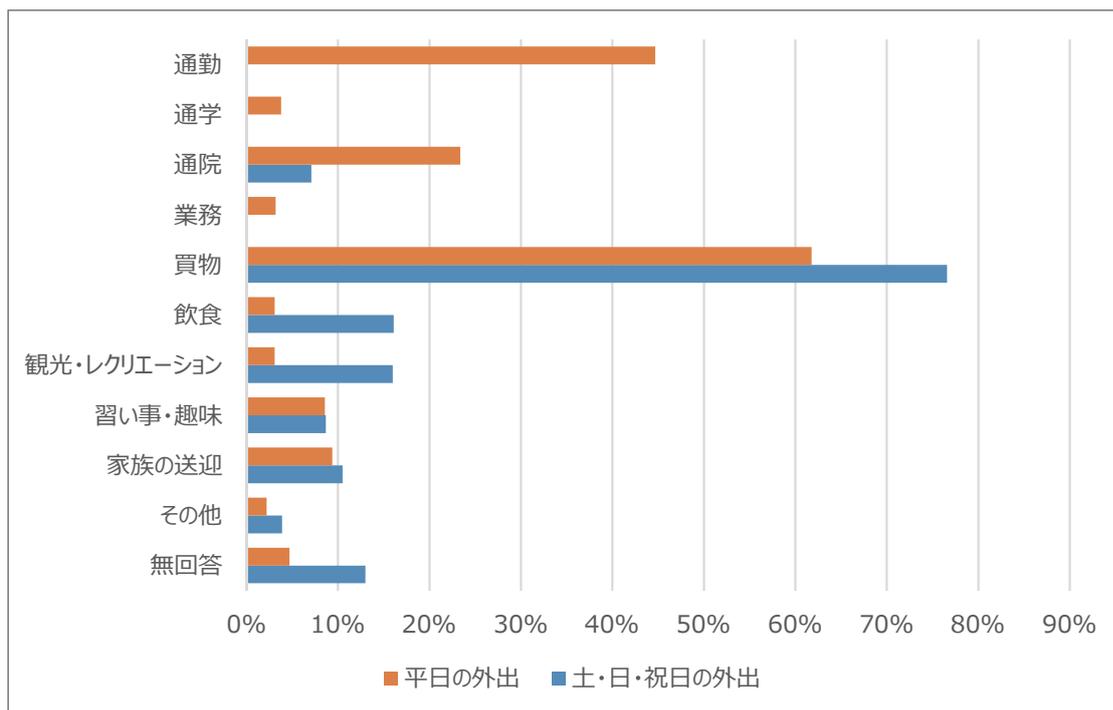
## 【年齢別】

	ほとんどの外出で 自動車を使っている	時々自動車を 使っている	自動車を利用する ことはほとんどない	無回答
10歳代	<b>65.0%</b>	25.0%	7.5%	2.5%
20歳代	<b>74.6%</b>	15.9%	7.9%	1.6%
30歳代	<b>94.4%</b>	2.8%	2.8%	0.0%
40歳代	<b>88.7%</b>	8.8%	1.9%	0.6%
50歳代	<b>91.1%</b>	6.3%	1.9%	0.6%
60歳～64歳	<b>90.0%</b>	7.0%	2.0%	1.0%
65歳～69歳	<b>88.1%</b>	8.9%	2.4%	0.6%
70歳～74歳	<b>81.1%</b>	8.3%	3.9%	6.8%
75歳～79歳	<b>78.3%</b>	9.6%	6.1%	6.1%
80歳以上	<b>54.5%</b>	17.1%	10.6%	17.9%

## Q 平日の主な外出目的に利用する移動手段（複数回答）

1 自動車（自分で運転）	<b>70.4%</b>
2 近鉄大阪線	<b>26.5%</b>
3 自動車（誰かの送迎）	<b>21.2%</b>
4 徒歩	16.6%
5 三重交通バス	13.1%
6 自転車	6.3%
7 タクシー	3.9%
8 バイク（原付含む）	3.3%
9 ナッキー号	3.1%
10 病院・スーパーの送迎サービス	1.5%
11 地域コミュニティバス	0.8%
12 福祉有償運送	0.7%
13 移動支援サービス	0.4%
14 その他・無回答	3.3%

Q 主な外出の目的



Q 日常の買物でよく訪れている買い物施設（地域別）

※アンケート結果を基に図を作成

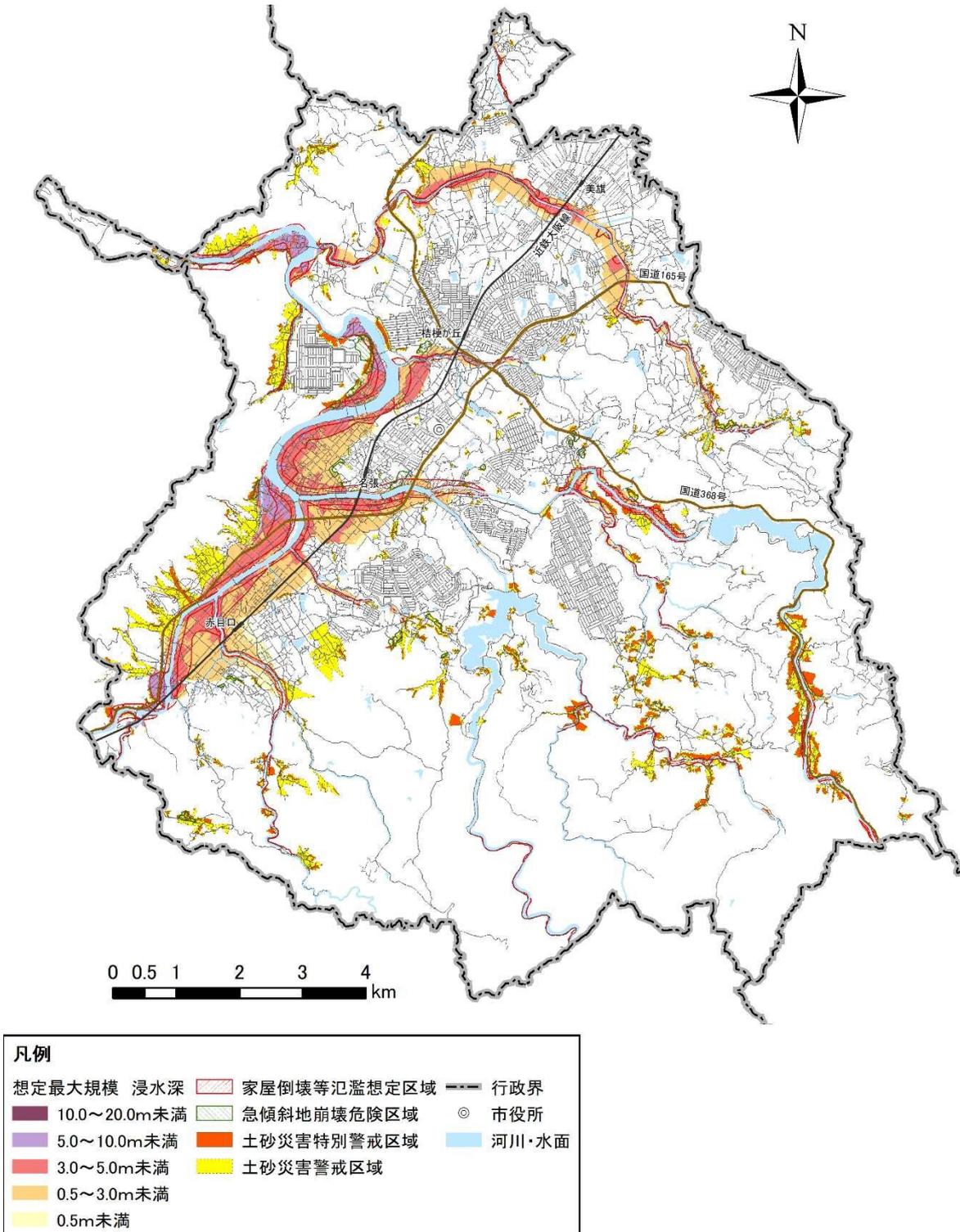


- 凡例
- スーパー
  - ドラッグストア
  - ➔ 地域別第1位の買い物施設
  - ➔ 地域別第2位の買い物施設

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。  
 ※複数回答の質問は、合計が100%を超えます。

## 8. 災害

土砂災害（特別）警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域は、山間部に多く分布していますが、市街地の中や住宅団地の周辺部分にも見られます。名張地域では洪水浸水想定区域が広範囲にわたっており、家屋倒壊等氾濫想定区域もあります。



(参考) 主な災害ハザード情報

### 洪水浸水想定区域 (想定最大規模)

河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域。想定し得る最大規模 (およそ1,000年に1回程度) の降雨量を想定したもので、家野地点上流域の9時間総雨量約380mmを想定しています。

### 家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域。氾濫流と河岸侵食の2種類があります。

#### (氾濫流)

氾濫水の流れの力が大きく、特に木造家屋の倒壊の危険があります。



出典：国土交通省『洪水浸水想定区域図作成マニュアル (第4版)』

#### (河岸侵食)

河川の流れにより土地が侵食され流失する危険があります。



出典：国土交通省『洪水浸水想定区域図作成マニュアル (第4版)』

### 土砂災害 (特別) 警戒区域

土砂災害により建物が損壊し住民等の生命又は身体に (著しい) 危害が生じるおそれがある区域。土石流と急傾斜地崩壊と地すべりの3種類がありますが、市内に地すべりの土砂災害 (特別) 警戒区域はありません。

#### (土石流)

長雨や集中豪雨などによって、山から崩れてきた岩や土砂が水と一緒にになって一気に下流へと押し流されるもの。



出典：三重県ホームページ「土砂災害とは」

#### (急傾斜地崩壊)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちるもの。



出典：三重県ホームページ「土砂災害とは」

### 急傾斜地崩壊危険区域

傾斜度が30度以上ある土地で崩壊のおそれがあるため、建築等の際には一定の行為制限を必要とする土地の区域。



## 9. 解決すべき課題の抽出

○本市の総人口は、2045（令和27）年には1985（昭和60）年頃の人口程度にまで減少すると推計されており、年齢階層別で見ると年少人口と生産年齢人口の減少が大きく、都市の活力の低下が懸念されます。本計画策定のために実施した中学生アンケートでは、将来も名張市に住みたいという回答は40.1%でした（29ページ参照）。都市の活力を維持するためには、若い世代をはじめ、多くの人々が住みたい、住み続けたいと思う魅力ある都市づくりが求められます。

○都市が広がったまま人口が減少し、空き地や空き家が増加することで都市のスポンジ化が懸念されます。にぎわいの喪失につながるほか、一定の人口密度に支えられた各種都市機能の低下や、景観・生活環境の悪化のおそれがあります。利用されなくなった農地の小規模な宅地化も増加傾向にある中、居住や都市機能の適切な誘導や土地利用の規制が必要です。

○現状では公共交通の利用頻度が低く、地域公共交通に関する市民アンケートでは「ほとんどの外出で自動車を使っている」という回答が80%を超えていました（32ページ参照）。利用者減少による収支率の低い路線の減便等も懸念されますが、超高齢社会においては、公共交通等の移動手段の確保は今後も必要不可欠であり、自動車に過度に頼らなくても便利に暮らせる交通環境が求められます。

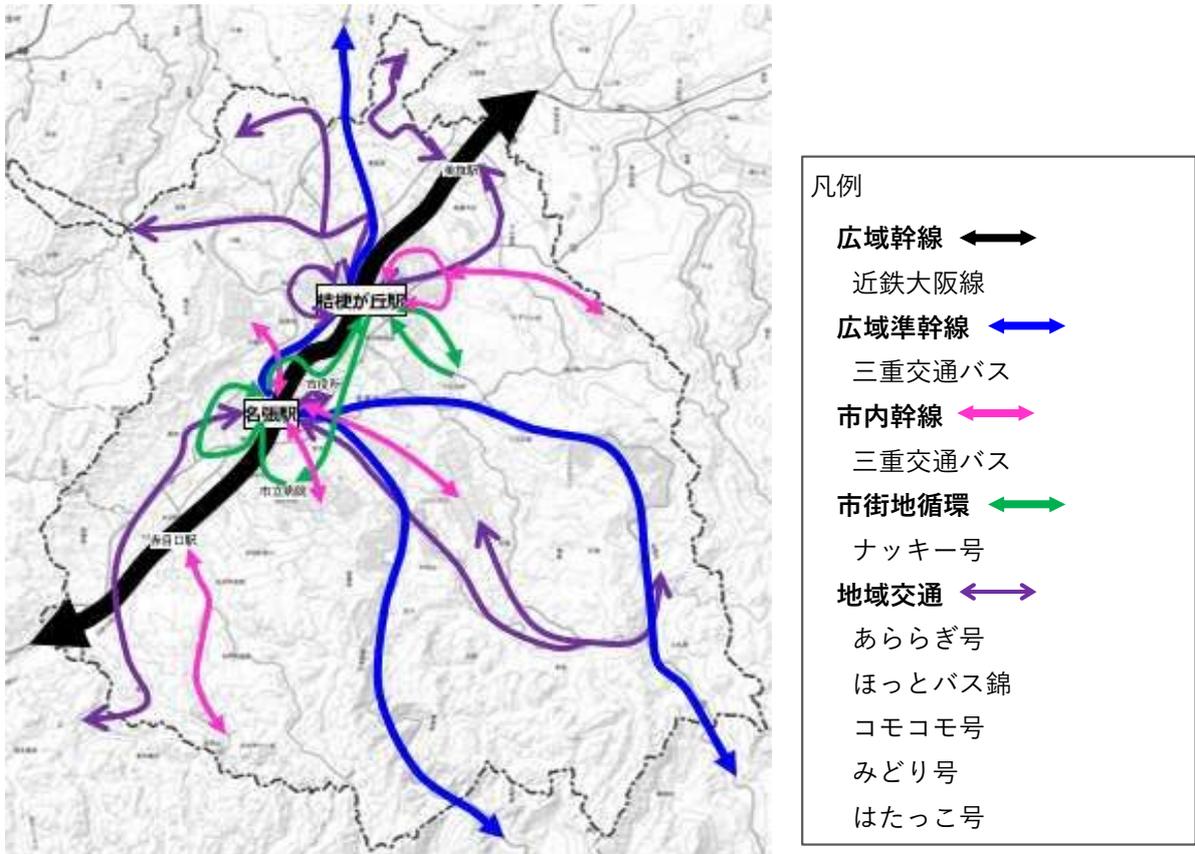
○本市は豊かな自然に恵まれています。中学生アンケートでも、居住地域が住みやすい理由として「自然が豊かで生活環境が良いから」、本市の将来については「自然が豊かで環境に配慮したまちづくり」が望ましいという回答が最も多い結果となりました

（28ページ・30ページ参照）。自然に囲まれた美しいまちを維持するとともに、近年、頻発化・激甚化している自然災害に対応できる強靱なまちづくりも必要です。

○交通結節点(\*)である鉄道駅を有する名張地域と桔梗が丘地域で人口減少と少子高齢化が顕著となっています。特に桔梗が丘駅周辺は、北部のコミュニティバス等が集まる交通結節点であるにもかかわらず、商業施設の撤退等によりにぎわいが喪失しています。市の中心部に当たる両地域への居住や都市機能の適切な誘導が求められます。

※交通結節点とは、様々な交通手段を相互に連絡する乗換え・乗継ぎ施設のことです。  
市内の交通結節点については次ページのイメージ図を参照してください。

公共交通ネットワークと交通結節点（名張駅・桔梗が丘駅）のイメージ図



出典：『名張市地域公共交通計画』より一部加工